

第十三節 昭和十年

昭和十年度東京美術學校年報

甲 款

概況

昭和十年三月二十三日ニ圖畫師範科同月三十日ニ各本科入學許可者ノ氏名ヲ本校内ニ揭示發表シ四月十五日官報ニ掲載セリ

同年四月十一日入學式ヲ行フ

同年五月八日ヨリ十日ニ至ル三日間各本科一年百五名圖畫師範科

二年十四名千葉縣下志津陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施セリ

同年十月十四日ヨリ十六日ニ至ル三日間各科豫科百七名圖畫師範科

一年十五名千葉縣習志野陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施セリ

同年七月一日ヨリ四日ニ至ル四日間各本科二年百二十五名圖畫師

範科三年十五名群馬縣相馬ヶ原陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施

セリ

同年十月四日日本校設置記念日ナリシモ都合ニヨリ繰下ゲ十一月四

日記念式ヲ行フ

同十一年一月八日午前九時ヨリ職員生徒一同講堂ニ參集シ新年授

業始式ヲ舉行セリ

同年一月二十四日午前九時ヨリ各本科四百四十三名圖畫師範科四

十四名ニ對シ教練査閲実施セラル

同年三月二十四日午前十時ヨリ本校第四十五回卒業式ヲ行ヒ例ニ

依リ各科卒業製作品並ニ圖畫師範科成績品ヲ別室ニ陳列シ來賓ノ
觀覽ニ供シ翌二十五、二十六ノ兩日間廣ク本校關係者及有志等ニ
觀覽セシメタリ

規程

本年度内ニアリテハ創定又ハ改正セラレタルモノナシ

設備

圖畫師範科作業科設備費〔昭和七年度以降年報と〕
彫刻科塑造教室新設ノ件

本校彫刻科ハ塑造、木彫ノ兩部ニ分レ塑造部ニ於テハ塑土ヲ以テ
人体模型或ハ諸種ノ原型ヲ製作スルノ術ヲ授ケ木彫部モ亦其基礎
教育トシテ塑造授業ヲ課スルノ要アリ 然ルニ現在塑造ノ授業ニ
充用シアル教室ハ既ニ二十五年前ノ建造ニ係リ當時ハ收容生徒モ
少数ナリシ為不便ヲ感ズルノ程度モ少カリシガ近年彫刻科入學志
願者ノ激増ニ伴ヒ其緩和策トシテ募入人員ヲ増加シタルノ結果最
近著シク狹溢ヲ感スルニ至リ十分ナル授業上ノ効果ヲ擧ゲ得ザル
ノ狀況ニアリ 加フルニ最近建築科生徒ニモ基礎教育トシテ塑造
授業ヲ課スコトナリ愈々狹溢ヲ来シタル為窮策トシテ生徒控所
ノ建物ノ一部ニ改造ヲ加ヘ不便ヲ忍ビツ、同科ノ授業ニ充テ今日
ニ至リシモカクテハ到底完全ナル授業上ノ効果ヲ収メ難キ憾アリ
仍ツテ別ニ豫算ニ計上セル如ク此際塑造授業ニ適合セル完全ナ
ル教室ヲ新築スルノ要アリ

職員

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十七人生徒主事一人
助教授十五人書記五人生徒主事補一人囑託講師十六人同教員十五

人同醫師一人副科嘱託三人事務嘱託二人教務雇二人事務雇十三人ニシテ前年度ニ比スレバ教授ニ一人事務雇ニ一人ヲ増シタルモ助教授ニ一人嘱託教員ニ二人事務嘱託ニ一人教務雇ニ一人ヲ減ジ其他増減ナシ

生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ状態ハ前年度ニ比較シテ大差アルヲ認メズ 新入學生徒ニアリテモ大要亦同様ニシテ特ニ標準スベキ事情ナシトス

本年度新入學者ハ本科百二十三人特別學生五人圖書師範科十五人研究生三十八人ニシテ其入學者ノ學力程度ハ本科生ニアリテハ内地人官公立中學校卒業者六十四人同四年修了者八人私立中學校卒業者二十四人同四年修了者一人師範學校卒業者一人工業學校卒業者四人工藝學校卒業者四人農業學校卒業者一人實業學校卒業者二人美術專門學校卒業者一人同中途退學者四人高等學校尋常科卒業者一人同四年修了者一人私立大學專門部中途退學者二人同豫科中途退學者一人寫眞專門學校卒業者二人朝鮮人海州公立高等普通學校卒業者一人台南州立台南第二中學校四年修了者一人ナリ 特別學生ニアリテハ上海美術專門學校卒業者二人北平美術專門學校卒業者一人國立西湖藝術專門學校卒業者一人國立杭州藝術專門學校卒業者一人ナリ 圖書師範科ニアリテハ官公立中學校卒業者九人私立中學校卒業者二人商業學校卒業者二人ナリ 研究科生三十八人ハ何レモ本校卒業者ノ入學シタルモノトス
新入學生徒ノ年齢ハ本科生ニアリテハ内地人最高二十六年一ヶ月最低十七年二ヶ月ニシテ平均二十年八ヶ月朝鮮人最高二十二年四月

ヶ月最低二十二年四月ニシテ平均二十二年四月臺灣人最高二十二年五月最低二十二年五月平均二十二年五月ナリ 圖書師範科生ハ最高二十二年四月最低十八年二月ニシテ平均二十二年九月ナリ 研究科生ハ最高四十七年七月最低二十二年九月ニシテ平均二十五年二月ナリ

生徒ノ入退學ニ就テハ本年度入學者本科百二十三人特別學生五人圖書師範科十五人研究生三十八人復校セシモノ二人ニシテ選科入學者及再入學者ナシ 退學者ハ病氣退學三人家事係累退學十四人除名處分ノモノ十八人死亡亡五人研究生在學資格消滅二人ニシテ放校處分ノモノ及轉科セシモノナシ 之ヲ前年度ニ比較スレバ入學者ハ本科生ニ二人特別學生ニ一人ヲ減シタルモ研究生ニ四人復校者ニ二人ヲ増シ圖書師範科生ニハ増減ナシ 退學者ニアリテハ除名處分ニヨルモノ八人死亡退學ニ一人研究生在學資格消滅ニ二人ヲ増シタルモ家事係累退學ニ二人ヲ減ジ其他増減ナシ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度ニ比スレバ彫刻科塑造部ニ二人同木彫部ニ一人工藝科鍛金部ニ三人同漆工部ニ一人特別學生ニ四人研究生ニ二人ヲ増シタルモ日本畫科ニ三人油畫科ニ五人工藝科彫金部ニ二人同鑄金部ニ二人選科生ニ一人ヲ減ジ工藝科圖案部建築科圖書師範科ニハ増減ナシ 之ヲ綜合シテ全体ノ差引ノ結果ハ増減ナシ

右各科部中彫刻科塑造部ノ増加シタルハ復校セシモノアリタルガ為ニシテ同木彫部及工藝科漆工部ノ増加ハ新入學者ニ比シ卒業者ノ少カリシニ基キ工藝科鍛金部及特別學生ノ増加ハ募入人員ノ增加ニ因リ研究生ノ増加ハ入學者ノ比較的多カリシニ起因セリ 日

本畫科油畫科工藝科彫金部同鑄金部ノ減少ハ中途退學者ノ多カリシ為メニシテ選科ノ減少ハ全然募入セザルニ基ケリ

本年度ノ卒業生ハ本科百十三人選科一人圖畫師範科十五人計百二十九人ニシテ前年度ニ比シ十四人減少セリ

圖畫師範科生徒ニハ前年度ニ於ケルト同一方法ニヨリ學術又ハ技術ノ優秀ナルモノニ等差ヲ附シテ獎勵金ヲ給與セリ 即チ昭和十年四月二日同年十一月一日同十一年二月十四日ノ三回ニ同科生徒ノ競技會ヲ催シ其成績ヲ考查シテ優秀ナルモノニ獎勵金ヲ付與セリ

昭和十一年三月卒業スベキ各本科並ニ圖畫師範科生徒七十四名ノ實地修學ノ為本年度ノ初四月五日ヨリ同月二十日迄十六日間教授二名配屬將校一名助教授一名書記一名講師一名囑託一名之ガ引率又ハ附添ニ任シ三東京都奈良ノ一府二縣ニ出張シ著名ナル神社佛格等ヲ歴觀シテ美術上ノ實地研究ヲナシタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテ申報スベキ事項ナシ

將來施設上重要ト認ムル件

大講堂新設ノ件〔昭和四年度以降報告と
ほほ同文につき省略。〕

圖畫師範科ノ修業年限ヲ四年ニ延長スルノ件〔昭和九年度報告と
同文につき省略。〕

版畫教室設置ノ件

版畫ハ其ノ技術的工程ヨリ生スル固有ノ表現效果ヲ以テ他ノ手法ニ依リテ成シ能ハザル特殊ノ藝術の價值ヲ有シ美術ノ一分科トシテ重要ナル領域ヲ占ムルモノナリ 然ルニ其技法タルヤ特殊ノ習熟ヲ必要トシ且ツ其ノ效果ハ一般繪畫ノ自由暢達ナル領域ニ比シ

寧ロ簡素小規模ナル趣致ヲ旨トスル故ヲ以テ現代ノ時流ニ於テハ比較的閑却セラレ易ク一部特志ナル研究者ノ間ニ於テ試ミラル、程度ニアリ 特ニ我が美術ノ誇トスル日本木版畫ノ精技ニ至リテハ其ノ技法ヲ嗣グモノ寡ク或ハ近ク其ノ衰滅ヲ見ルノ惧ナシトセズ

之ヲ保護獎勵シ在來ノ技術ノ傳統ヲ傳ヘテ一ニハ本邦木版畫法ノ存續ト其ノ新ナル發展ニ資シ他方西邦ニ於テ發達練磨セラレタル技法ヲ傳ヘテ現代ニ於ケル美術製作上新ナル分野ヲ拓ク等版畫ニ就キテ其ノ發達改善ノ途ヲ講ズルコトハ現代美術教育上ノ急務ニシテ之ガ為ニハ版畫ニ關スル技法ノ正則ナル傳習機關ノ設置ヲ以テ其ノ基礎要件トナスコト言フ俟タザル所ナリトス 本校ニ於テ之ガ施設ヲ行フハ最モ時宜ニ適シタルモノトイフベク豫テ其ノ必要ヲ認メ版畫科ノ設置ヲ計畫セシコトアレドモ經費ノ都合上未ダ實現ニ至ラザルヲ遺憾トセリ 然ル處雨潤會ヨリ版畫研究費トシテ昭和十年年度ヨリ三ヶ年ニ亘リ九千円ノ補助金ノ交付ヲ受クルノ途ヲ得タルヲ以テ最モ簡易ニ實現シ得ル日本版畫法及エツチング法ノ二種ヲ選ビ臨時版畫教室ヲ設置シ各科生徒ノ實習指導ノ機關トナシ指導教官ニ教授二名他ニ專任囑託ヲ聘シ專ラ指導ノ任ニ當ラシメ昭和十年五月ヨリ實施セリ 現在エツチング部ニハ二十名木版畫部ニハ二十八名ノ生徒ヲ擁シ非常ナル好成績ヲ擧ゲツツアルモ上述ノ如ク雨潤會ノ補助金ハ昭和十二年度ヲ限リトスルモ以テ年次至レバ改メテ經費ノ要請ヲナシ引續キ繼續セントス考慮ヲ垂レラレンコトヲ望ム

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スル為諸所ヨリ依囑ヲ受ケ製作ニ從事シタルモ

ノノ中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依囑製作一覽

品目	數量	受託年度	竣工年度	依頼者
奉迎表容器	壹箱	昭和十年四月三日	昭和十年四月八日	東京市長 牛塚 虎太郎
花盛器	壹個	同年四月十五日	同年四月二十三日	農林大臣 官房會計課
白銅鑄造硯屏	四百貳拾六個	同年五月十五日	同年七月十一日	東京市長 牛塚 虎太郎
賞牌	八個	同年七月十日	同年九月十三日	日本學術協會理事 西 成 甫
花盛器	貳個	同年十月一日	同年十一月二日	農林大臣 官房會計課
畫帖	壹帖	同年十月七日	昭和十一年三月三十一日	日本銀行秘書役 岡野 清 豪
東郷元帥室入口棹及扉原型	壹式	同年同月同日	同年三月三十一日	海軍兵學校 海軍中將及川古志郎
メタル	壹個	同年十二月十三日	同年三月三十日	昭和第一商業學校長 寶 積 一
花盛器	貳個	昭和十一年二月三日	同年三月九日	農林大臣 官房會計課
東郷元帥遺容器及臺石	壹式	同年三月二日	同年三月二十一日	海軍兵學校 海軍中將出光万兵衛

『校友会会報』記事抜粹

學校記事〔五〕号 S・一〇・六・二五〔日〕

職員辭令

昭和十年二月八日

生徒主事兼教授 佐々木 卓

紋勲六等授瑞寶章（賞勳局）

同 三月七日

依願解雇（本校）

同 同月二十二日

各通

助教授 松田 義之
講師 鈴川 信一

教員檢定委員會臨時委員被仰付（内閣）

同 四月一日

陸絛高等官三等（内閣）

教授 南 薰造

同 同月四日

教授 岡田三郎助

各通

同 六角注多良
同 津田 信夫
同 和田 三造
同 海野 清

工藝審査委員會委員被仰付（内閣）

同 同月十二日

教授兼生徒主事 森田龜之助

工藝科豫科主任ヲ命ス（本校）

同 同月同日

教授 和田 三造

工藝科豫科主任ヲ免ス（本校）

同 同月二十一日

休職教授 渡邊 啓三

右昭和八年四月二十二日休職ノ處本日ヲ以テ休職期間滿了セリ